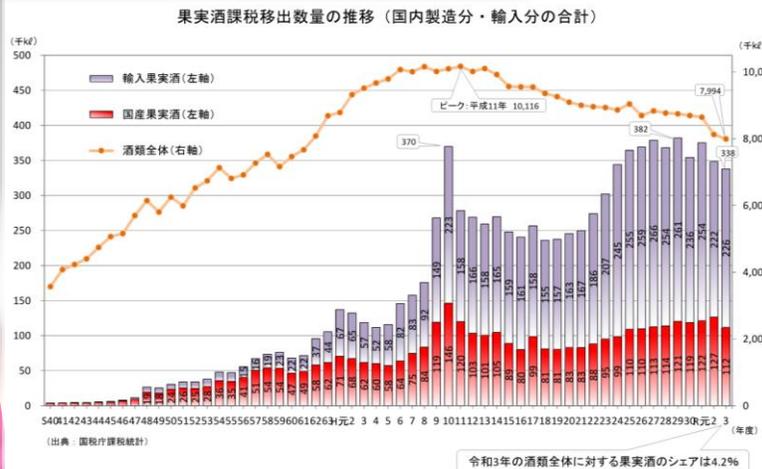


■ 国内におけるワインの消費拡大

▶ 国内におけるワインについては国内製造分も含めて消費が拡大しています。特に国産ブドウのみから作られる「日本ワイン」には高品質なものも登場しており、地域振興、6次産業化などを通じて、新たな「日本ワイン」作りへの参入も期待されています。

■ 果実酒の課税移出数量の推移



▶ 長期的に見ると、酒類全体の消費数量が減少する中で、ワインは順調に推移していると言えるでしょう。

▶ 2013年には和食がユネスコ無形文化遺産に登録され、和食と相性の良い日本ワインは、需要も品質もさらに成長が期待できると日本ワイナリー協会では予測しています。

■ 千葉市ワインProjectの始動

▶ このような好調なワイン市場を背景に、地元千葉の風土をたっぷりと吸い込んだブドウを原料とした「千葉市ワイン」の醸造を目指す「千葉市ワインProject」を始動したトミオホールディングス社取材しました。



■ 「千葉市を代表するもの」を創り出すために

▶ 「人の一生」に関わる事業 — トミオホールディングス社は、住宅不動産・雑貨インテリア・子育て・美容・グルメ・介護など”暮らしに寄り添う”人に寄り添う”事業を展開しています。

▶ 「千葉市が好き。だから千葉市を象徴するものを創りたい。」 — 代表取締役社長の大澤さんは、同社がこのような事業を展開している中で千葉市を象徴するものを創りたいという思いから千葉市内でブドウの栽培から醸造までを行う”オール千葉市産ワイン”造りを思いついたようです。

▶ 「千葉市でぶどうなんかできるわけじゃないか！」 — 長年ワイン業界に携わってきた大塚さんは、大澤さんから千葉市産ワインの話聞いたときは無茶な話だと感じたようですが、自身が千葉市で生まれ育ったこともあり、「千葉市を象徴するものを作る」という大澤さんの思いに共感しプロジェクトの発起人となりました。



株式会社トミオホールディングス
ワイナリー事業部 大塚裕敬さん

株式会社トミオホールディングス
代表取締役社長 大澤成行さん

1999年より24年間ワイン業界に携わる。日本ワイナリー協会主催「日本ワインまつり」にも携わる。千葉の食文化振興にも取り組む。

千葉市を中心に”人と暮らしに寄り添う事業”をテーマに事業を展開。地域の人の暮らしを豊かにするために”千葉を代表するもの”創出を構想。

▶ 2024年春には千葉市内にある自社圃場を開墾し、約300本のワイン用ブドウの栽培を開始しています。現在、トミオヴィレッジ高品内に千葉市初のワイナリーが建設されており、2025年秋開業を予定しています。

■ なぜブドウから作るのか？



▶ 作り手の「こういうワインを作りたい！」という想いや表現の仕方、ブドウの風味は大きく変わります。千葉市ワインProjectで目指す千葉市の文化や歴史に根付いたワインの味わいにするためには、自分たちの手でブドウから作る必要があります。



▲ブドウを栽培している様子

■ 千葉開府1000年を見据えて



▶ 2026年、千葉市は、まちが開かれてから900年という節目を迎えます。ワインProjectの中長期計画では、この開府900年の年にオール千葉市産ワインの醸造開始を目指しています。

▶ さらに、100年後の千葉開府1000年の年に「千(葉)年」を祝う千葉を代表するワイナリーへと育っていくことが同社の夢でもあります。

■ 目指すワイン



▶ 千葉の名産でもある海産物、醤油、味噌に合うような味わいを考えています。より詳細な味わいや目指す方向性については、ワインProjectのクラウドファンディングに協力していただいた方々と共に考えていきたいと思えます。



▲ワイナリー正面

■ 将来世代に繋いでいくワイン



▶ ワインは記念品としても大変人気があります。例えば子どもが生まれた年、生まれた場所のワインを記念品として購入してもらい将来成人した時に開けてもらえたら素晴らしいことだと思っています。

▶ 今後、千葉県果実酒製造協同組合(仮)を設立し、県内の業者と連携していく予定です。ワイン事業への新規参入のお手伝いなどを積極的に行い千葉県全体でワイン事業を盛り上げていけたら嬉しいです。

■ 地域で盛り上げるワインProject



▶ 地域でワインの勉強会を開催し、参加者とワインの味わいなどについて意見交換を行っています。参加者からの意見はワイン造りにも反映させ、地域ぐるみでワインProjectを盛り上げていきたいです。



▲トミオホールディングスと財務局職員

■ 人との繋がりを大切にしたい



▶ トミオホールディングス社は、「住宅不動産」「雑貨インテリア」「子育て」「美容」「グルメ」「介護」「海外事業」「環境エネルギー」など顧客と長く繋がりを持ちたいという想いで事業展開してきました。

ワインProjectもその一環となるよう、関わる人々との繋がりを大切にしていきたいです。

■ 課題への取り組み



▶ 千葉市でワイン用ブドウを栽培するには獣害対策や湿気対策を行い、年一回しかない実りから十分な収穫量を確保する必要があります。株式会社トミオホールディングスの圃場では、棚仕立てによる栽培法を取り入れることで、これらの対策を行っています。また、枝の剪定や草刈り等、目指すワインの味となるよう常に管理しています。



▲ワイナリー内 ワイン機材説明を受ける様子

■ 最後に -世代を超えて地域貢献-



▶ 千葉市の文化や歴史に根付いた千葉市を象徴するワインを作るというトミオホールディングスの目標の中に、世代を超えて地域へ貢献していきたいという意志を感じました。自分の子や孫の世代になった時、千葉市ワインが地域の文化として根付いていることを願いながら、このプロジェクトを応援していきたいと思えます。